

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

（注）5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。






（判断の要点）

個人消費は、スーパーやコンビニエンスストアが堅調となっているほか、観光も回復しつつあることから、全体としては持ち直している。生産活動は、電気機械が弱含んでいるものの、汎用・生産用機械が持ち直しているほか、食料品が持ち直しつつあることから、全体としては一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年7月判断）	今回（5年10月判断）	前回比較
----	------------	-------------	------

個人消費	持ち直している	持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	現状判断は「上昇」超	現状判断は「上昇」超	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を上回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

スーパーは、衣料品や身の回り品が順調であるほか、飲食料品が堅調であることから、全体としても堅調となっている。コンビニエンスストアは、一部で弱い動きがみられるものの、飲料品や米飯類等が順調であることから、全体としては堅調となっている。ドラッグストアは、飲食料品や化粧品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、エアコンや一部の高付加価値製品に動きがみられるものの、販売価格の上昇などから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、エアコン等の季節商品や、行楽用品等に動きがみられることから、全体としては底堅いものとなっている。百貨店は、衣料品や身の回り品、高額品等に動きがみられることから、全体としては堅調となっている。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を上回っている。観光は、外国人観光客の増加により、回復しつつある。国内旅行は、緩やかに回復しつつあり、海外旅行は、持ち直しの兆しがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴うお出かけ需要が継続しており、夏物衣料やキャリーバッグ、化粧品などの売れ行きがよい。また、水着や浴衣といった季節商品の売上も好調。(スーパー)
- 中食需要の高まりなどから、総菜や冷凍食品の売上が好調。お盆時期などには、帰省や人が集まる機会の増加から寿司やオードブルなどの総菜が好調。(スーパー)
- 人流増加による来店客数の増加に伴って、おにぎりやペットボトル飲料などの売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- インバウンドも含めた人流回復の影響で、宿泊施設周辺の店舗を中心にアルコール飲料やスナック菓子、総菜の売れ行きがよい。(コンビニエンスストア)
- 気温高のため、麺類が思うように伸長しなかった。(コンビニエンスストア)
- 取扱いを強化している冷凍食品や生鮮食品の売れ行きがよい。(ドラッグストア)
- 外出機会やマスクを外す機会が増加したことで、化粧品の売上が着実に回復傾向にある。(ドラッグストア)
- エアコンの販売が大幅に増加したほか、家事負担軽減・タイムパフォーマンスに資する高付加価値製品が広く支持されているものの、販売価格の上昇などを背景に、幅広い品目で買い控えがみられる。(家電大型専門店)
- 気温が高く、扇風機やエアコン、すだれなどの季節商品の売上が大きく伸びた。(ホームセンター)
- 行楽需要の増加により、木炭やクーラーボックスなどの行楽用品が好調。(ホームセンター)
- 外出機会の増加などから、夏物衣料や身の回り品、化粧品が好調。また、高級時計についても一部ブランドの品薄が解消され売上好調。(百貨店)
- 半導体不足の影響が落ち着き、生産が正常化しつつあることで、登録台数は増加している。(乗用車)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う観光需要の高まりや、円安の影響で、台湾や欧米からの外国人観光客が多くみられている。(観光)
- 新型コロナウイルス感染症流行以前の人気エリアに需要が戻っているほか、団体旅行も増えており、国内旅行は好調である。(旅行)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

汎用・生産用機械は、建設工事向けに動きがみられることから、持ち直している。食料品は、堅調な需要を背景に、持ち直しつつある。電気機械は、電子部品に弱さがみられることから、弱含んでいる。こうしたことから、全体としては一進一退の状況にある。

- 公共工事や工場メンテナンスにより需要が増加している。(汎用・生産用機械)
- 前期までの部品調達難が解消され、生産量が回復している。(汎用・生産用機械)
- 冷凍食品は手軽さなどから人気が高く、受注状況は引き続き好調。(食料品)
- スマートフォン向け電子部品について、引き続き中国での在庫調整や消費者の買い控えから、生産量が減少している。(電気機械)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は横ばいとなっている。新規求人数は前年を下回っている。法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIをみると、9月末は全産業で32.8%ポイントと「不足気味」超となっている。

- 新規求人数の減少は、前年にイベント開催に伴う大型求人があった反動や求人の提出時期のずれなどによるものが多く、様々な業種で人手不足感がある。(労働局)
- 宿泊、飲食業では、引き続き観光客が増加していることなどにより求人が増加している。(労働局)
- 運輸業では、慢性的な人手不足に加え、物流の2024年問題に備えた求人が増加している。(労働局)
- 需要が好調のため新卒・中途ともに採用をしたいが、なかなか応募が集まらない。また、採用後の定着率も課題となっている。(食料品製造業)

■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7~9月期

- 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年7~9月期

- 製造業及び非製造業で減益見込みとなっており、全体としても減益見込みとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家、貸家、分譲のいずれにおいても前年を下回っている。

- 資材価格上昇による住宅価格の値上がりなどによって、住宅購入のマインドが低下している。

■ 公共事業 「前年度を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等及び市町村は前年度を上回っているものの、国及び県は前年度を下回っていることから、全体としても前年度を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
愛媛県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。
高知県	持ち直している	持ち直している	➡	個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。